屋上空間。大きく展開される壁面が渋谷の街のスケールにに連続する。

吹き抜けた空間では壁面を利用した活動がフロアレベルを越えて交わりあう。

渋谷の街で人々が壁面を自由に利用していき、ケンチクは日々その表情を豊かに変化させていく。
この場所へショッピングに来る人々、この場所を見る人々、彼ら全てを巻き込みながら、彼ら全てによって創り出される活気あふれる場所。

商業空間の中に、それとは関わりのない企業ロゴや広告が混在しあう。

敷地と絡み合う既存の建築ヴォリュームの壁面も内部空間の一部として取り込んでいる。

ケンチクが先か、メディアが先か

渋谷という街に成り立つ新しいビルディングタイプを提案します。
これまで広告に寄生され内部空間の活動を閉ざしてきた商業ビルのファサードは、インタラクティブな存在として渋谷の街と人々に解放され、活気に溢れた新たな商業空間へと連続していきます。彼らの手によって広告やデジタルサイネージのみならず、ウォールアートやシネマ、写真などを用いた様々な情報や文化を日々発信していくことで、目まぐるしく変化する渋谷の街に呼応するかのようにケンチクもその表情を変えていきます。これまで混ざり合わなかったものが混ざり合いながら、新しい渋谷な価値観を創り出します。

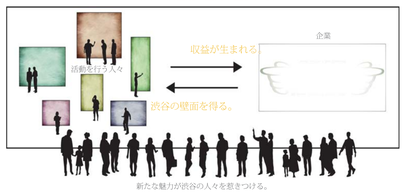
■ 敷地（東京都渋谷区宇田川町の一角）

※ 渋谷駅周辺整備ガイドプラン21（渋谷区より）参照

首都圏の鉄道のほとんどが渋谷を起点・終点として運行しており、多くの人々が乗降し行き交うことで渋谷の街は彼らに向けた広告や大型ビジョンによる大量の情報で埋め尽くされています。人々はこれらに絶えず受け身であるわけですが、そういった一方向な情報環境で溢れる現在の渋谷に対し、人々が主体となってインタラクティブに展開していく情報や文化の発着点としての場所がこの先の渋谷に必要であると考えました。ここに私たちは新しい価値観を付加する、ケンチクでメディアな存在を提案します。

■ 多様な壁面利用による運営方法

提案するこのケンチクは、商業機能やメディア空間としての機能を兼ね備えています。企業だけではなく多様な人々が広告やデジタルサイネージ、ウォールアートやシネマ、写真や映像などを用いた様々な情報や文化を壁面利用によって発信していきます。周囲の建築に比べ利用できる壁面が多いことから、この立地において比較的安価で彼らに活動の場を提供することができます。また、それらの壁面利用で得られる収益によって、商業的にも従来よりコストを抑えてこの立地で運営することができます。商業空間の中に、それとは関わりのない企業ロゴや広告、壁面を用いた多様なメディア活動が混在し合うという新しい価値観のもと、活気に溢れた環境が生まれます。

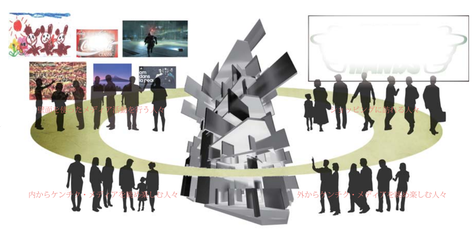


■ 渋谷の街における建築の現状とその先

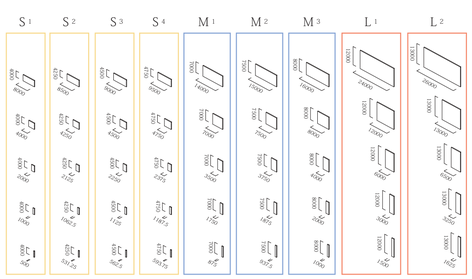
建築の外壁は広告などによる商業化が激しいものとなっており、目まぐるしく変化する街の表情を形成する要因となっています。これは渋谷の街が持つ大きな特徴でもあり、この環境のもとで建築を計画する際には外壁に広告が付加されることを前提条件とする必要があるわけです。しかし現状では、まるでその表面に寄生されるかの如く、建築が広告のための媒体と化しているだけであると言えます。そこで私たちは、空間の魅力・豊かさとしてそれらを建築内部に取り込むと同時に渋谷の街への連続性を生み出すことで、これからの渋谷にとっての新しい象徴的存在を創ります。

■ 人々を巻き込む 人々が創り出す それはメディアでありケンチク

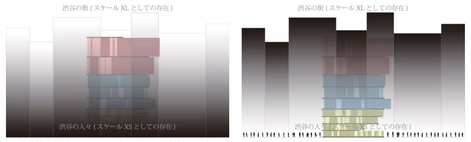
人々が絶えず受け身であるだけの一方向な情報環境で溢れるかえる現在の渋谷は変わります。解放された壁面は人々の多様な活動を受け止める場となり、彼らに渋谷の主体性を与え、インタラクティブな環境を生み出します。この場所で活動する人々、この場所にショッピングに来る人々、この場所を見る人々、彼ら全てを巻き込みながら、彼ら全てによって創り出されるこの存在は、大きな一つのメディアであり、現在の先にある渋谷を担うケンチクです。



■ ３つのスケールを持つ壁による構成

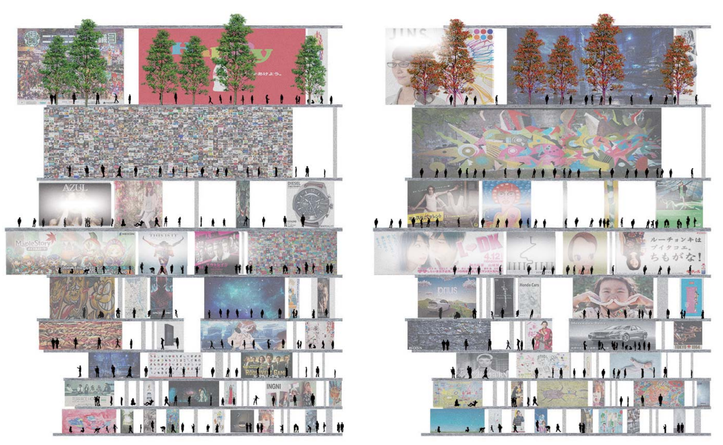


S、M、Lに分類する３つのスケールを持つ壁を計画します。それらの壁面は渋谷の従来的な広告利用だけにとどまらず、ウォールアートやシネマ、写真や映像などによるメディア活動の手段として利用されます。それらを積層させることでヴォリュームを構成していきます。



低層階から高層階へと上がるにつれて壁のスケールもS、M、Lと徐々に大きく変化していきます。高層階ほど大きな単位での活動が行われるとともに渋谷の街のスケール（XL）に連続していき、低層階ほど小さな単位での活動が行われるとともに渋谷の人々のスケール（XS）に連続していきます。

■ メディアの移り変わりと、ケンチクの映り変わり



渋谷の人々によって日々変化する壁面利用が、内部空間やファサードの変化として現れる。

渋谷は常に目まぐるしく変化していく街です。それはこの街が持つ大きな魅力であり個性です。それに呼応するかのように、壁面を利用した多様なメディア活動の移り変わりによって、このケンチクのファサードや内部空間も連続しながら日々その表情を変えていきます。昨日までに広告が張られていた壁面が、今日は写真展の展示面に。明日になればそこは子どもたちが絵を描くキャンバスになっている。そんな場所がいくつもある―。豊かな表情溢れるこのケンチクは、変化に富んだ渋谷の街と同時に語られるような存在になることでしょう。